

教材教具名『ひらがな50音表』

教科(国語)

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方)

1 ねらい

文字に対する興味や関心を高め、ひらがなを読んだり、書いたりする力を育てる。

2 発達段階 『文字ことばを獲得する時期』

- 1) 絵を見たり、言葉を聞いたりすることで、いろいろな単語が理解できる。
文字としての「ひらがな」はあまり理解できていない。
- 2) - 1 ひらがなが少し文字として理解できる
- 2 だいたいのひらがなが文字として理解できる。

3 使い方

- 1) 「絵と単語見本(ひらがな)」が書かれた紙(右上)を見て、マグネット式になった「ひらがな50音表」(左上)の中から同じひらがなを探して、横に並べ単語を作る。(台にマグネット黒板を使うとよい)
- 2) 1)の学習がスムーズにできるようになったら、右上の「単語」の部分を書き換え、わかる単語については、見本を見せずに単語を作らせる。〔2) - 2〕
なお、移行期においては、別の紙に単語見本を書いておき、つまづいたときのみ、提示する。〔2) - 1〕

応用として、「°」「`」「´」をつけて単語を作ったり、助詞などを用いて短い文章を作ったりすることに発展させる。

児童生徒の反応や教材の評価

生徒Aさん - ひらがなの学習において、手指の巧緻性が課題となり、文字をなぞり書きすることが難しい生徒であったが、本教材はマグネット式の文字をマッチングさせて並べる活動で文字の理解につなげることができたために容易に取りかかることができた。

生徒Bさん - ひらがなの学習(文字を書く・読む)には抵抗感が強かったが、文字を記憶していなくてもマッチングさせることで完成できることや、正解がはっきりわかることから、スムーズにスタートすることができた。回を重ねるごとに単語を作ることが早くできるようになり、読めるひらがなが自然に増えてきている。

本教材での学習を通して、「50音表」についても自然と理解できるようになってきている。文字の大きさや裏につけるマグネットの大きさを変えることで、手指の巧緻性に合わせることや逆に手指の巧緻性を高める教材としても使うことができる。

ひらがな50音表に文字(マグネット)を重ねることでパズルとして導入に使うことができる。

